

～会計を通じて人に幸せを～

Hirai's レビュー

2011年8月号 (No. 32)

平井会計事務所 税理士 平井満広
〒108-0023 東京都港区芝浦4-22-1
芝浦アイランドエアタワー1704号
電話:03-3452-7082 Fax:03-6303-3350
Mail:m_hirai@hirai-ao.com
URL:http://www.hirai-ao.com/

資金繰り改善の基本！在庫と預貯金の関係

経営の命運を握るのは資金繰りですが、その資金繰りに大きな影響を与えるのが「在庫」です。今回は「在庫」と資金繰りの関係についてご紹介します。

◆在庫が増えるとどうなるか

ねじメーカーのA社では、同じ種類の部品を同じ得意先に毎日、同じ数量だけ出荷しています。得意先の業績が好調なこともあって、向こう半年分の注文がすでに確定しています。これまでA社、は在庫を少なくするためにねじの原料を10日に一度、10日分だけ納品してもらうよう、取引業者をお願いしていました。しかしここ最近、取引業者で原料の確保が難しいらしく、ねじを安定して供給するために、原料の在庫をある程度抱える必要がでてきそうです。その場合にはどんな影響が出るのか工場長は経理部長に相談してみることにしました。

◆10日一度から、半年分まとめて

「経理部長、実は相談があるんだけど…」

「どうしました、工場長」

「ここ最近、原料の確保が難しいので在庫を増やしたいと思ってるんだ」

「ねじの安定供給のためにはやむを得ないですねえ」

「例えば、思い切って半年分の在庫を抱えたとしたら、どんな影響があるのかな」

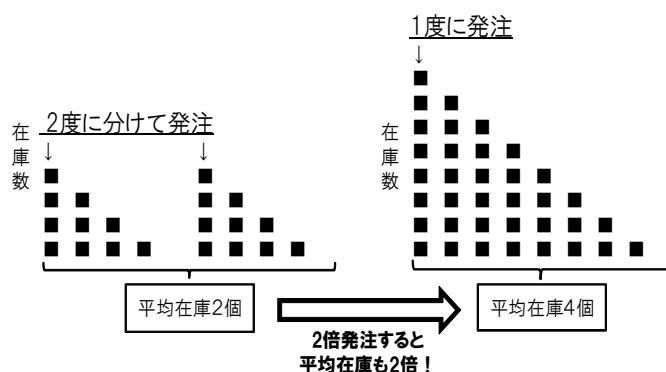
「半年分！それは経営にかなり影響がでます」

「でも、注文は確定していてねじは必ず売れるんだから結局は業績にあまり影響がないんじゃないの」

「確かに最終的な業績はどちらも一緒ですが、その間の資金繰りには大きな違いが出てきます」

「どういうこと？」

「簡単に言うと、発注量が2倍に増えると、その分平均在庫も2倍に増えて、資金繰りが悪化するんです」



「ん？もう少し具体的に教えてくれないかな」

「例えば当社では、原料代が1日分で3万円、取引業者へ納品時に10日分30万円を現金で支払っています。この場合、在庫の平均残高は15万円です」

「3万円×10日÷2=15万円、ということだね」

「同じ条件で、半年(180日)分の原料を一度に購入すると、在庫の平均残高は270万円になってしまいます」

「3万円×180日÷2=270万円、ということか。今と比較すると15倍にも膨らんでしまうんだなあ」

「工場長のおっしゃるとおりです！他の条件をまったくかえずに在庫を抱える日数を伸ばしてしまうと、その日数に比例して在庫金額が増えてしまうんです」

「そうなるよ、資金繰りにも影響があるんだろねえ」

「さすが工場長、理解がはやい！他の条件がすべて同じだと、在庫の平均残高の増加額は、そのまま預貯金の平均残高の減少額となってしまいます」

「270万円-15万円=255万円のマイナスになるのか」

「当社の運転資金はおおむね1000万円なので、すぐに資金繰りが厳しくなることはありません。ただ預貯金の平均残高が25%以上も減るのは少し不安です」

◆取引条件を見直す

「じゃあ、原料を半年分発注するのはあきらめるかな」

「でも、現場で必要なら対応すべきでしょう」

「そうはいつでも、資金繰りが厳しいんじゃないあ・・・」

「それなら取引条件を見直すのもひとつです。例えば、今は納品時に現金で一括払いとなっていますが、月末締め翌月払い、とすれば影響は和らぎます」

「そういった方法もあるのか」

「さらに、一括払いを分割払いにしてもらえば、もっと影響は少なくなります」

「なるほどなあ。でも、そんな一方的な条件を取引業者は了解してくれるかなあ」

「預貯金への影響が軽くなるならば、多少は購入価格の値上げを打診してもいいでしょう。銀行借入の金利を基準に私の方で限度額を計算してみます」

「ありがとう。たすかるよ」

「あとは工場長の交渉術にかかっています。腕の見せ所ですから、しっかり頑張ってくださいね！」

※このお便りは名刺の交換をさせて頂いた方にお送りさせて頂いております。ご不要の場合はご連絡ください。

★H23 上半期売上第1位「社長に喜ばれる説明の仕方」・「問題解決型会議運営法」DVD 好評発売中！